

平成29年度 第1回 東京航空局入札監視委員会
審 議 概 要

開催日及び場所	平成29年6月23日(金) 国土交通省航空局 会議室A・B	
委員	委員長 浅野 正一郎 (国立情報学研究所名誉教授) 委員 廣 渡 鉄 (弁護士) 委員 高 田 和 幸 (東京電機大学教授)	
審査対象期間	平成28年10月1日～平成29年3月31日	
抽出案件	総件数3件	
	1. 工事	一般競争契約方式(総合評価落札方式) 1件
	2. 建設コンサルタント業務等	簡易公募型プロポーザル方式 1件
	3. 物品の製造	一般競争契約方式(最低価格落札方式) 1件
各委員からの意見・質問、 それに対する東京航空局 の回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一者応札の改善に向けて、いろいろ努力している状況は理解。引き続き、理由の分析をすすめ発注時期の工夫などを検討し、競争性、透明性の確保に努めること。 ・低入札に関しては、傾向を分析するため、積算根拠など継続的に調査を行うとよい。 	

審議概要(別紙)

1. 工事(一般競争契約方式/総合評価落札方式)

東京国際空港庁舎 3000kVA 発電装置設置工事

意見・質問	回 答
<p>○一者応札となった理由の分析は如何。</p> <p>○空港内での工事という特殊性は理由ではなかったということか。</p> <p>○本件は、装置の製造を別発注し、設置工事のみであるため、難易度は高くはないのではないか。</p> <p>○施工計画を作成するなど、入札に参加するだけでも労力がかかっているのに、価格競争だけでも良いのではないか。どうすれば新規参入事業者を増やすことが可能か考えていくことも大切。</p> <p>○装置の製造と設置工事を、まとめて発注した方が、事業者としては収益を見込むことができると考える者もいるのではないか。</p>	<p>○発注した際の工期が年度後半となってしまったことで、事業者側が他の受注工事等と重複していたためと考えられる。</p> <p>○航空安全の確保対策や停電時のバックアップ体制などのリスクを抱えた内容であり、また羽田空港の重要性から、業者側がリスク回避を考えてしまったことも理由の一つと考えられる。</p> <p>○工事期間中の停電時の対応や、製造した装置の理解度など、難易度は高いと考えている。</p> <p>○基本的に1000万円を超える発注については、総合評価落札方式のプロセスを適用している。また、難易度を勘案しながら、総合評価落札方式のタイプを選定することとしている。</p> <p>○専門性の高い発注とそうでないものに分割することで、入札に参加しやすくなるという側面もあり、競争性を確保するためには必要なことと考えている。</p>

2. 建設コンサルタント業務等(簡易公募型プロポーザル方式)

東京国際空港新貴賓室新築設計業務

意見・質問	回 答
<p>○国を代表する建築物の設計者を、内部委員会のみで選定して良いのか。</p> <p>○評価の際、CPD が重要視されているが、業界への浸透を目的にしたものか。</p>	<p>○業者の選定については、総合評価委員会(第三者委員会)に諮ることとしている。また、仕様については、宮内庁や外務省などの関係機関と調整しながら決めている。</p> <p>○直接的な目的ではないが、CPD の重要性が理解され、各社がCPDに取り組むという効果もあると考えている。</p>

3. 物品の製造（一般競争契約方式／最低価格落札方式）

成田国際空港電力監視制御装置一式の製造

意見・質問	回答
<p>○落札率が 30%以下となっているが、予定価格が高すぎるということはないのか。</p> <p>○専門性の高い技術と、汎用技術との組み合わせの場合、企業によって捉え方が違うのではないかと。色々なデータを収集し、積算方法を勉強した方が良い。</p>	<p>○同様の発注において、落札率が95%の場合もあり、予定価格が高すぎるということはないと考えている。</p> <p>○積算基準にどこまで反映できるか、事業者側の事情など、入札価格にもバラツキがみられ難しい状況。今後もデータを蓄積し、根気よく傾向を探っていくしかないと考えている。</p>